つかかると、とても追つつけない。そのうちにこちらの戰鬪機もだいたい航續距離が來る。そして降りようとする時に敵の編隊がやつて來るといふやうなことがあります。だいたい最初目的地に出るまで八千乃至一萬メートルの高度をとつてをる。それでなかなか相手にしにくいのであります。最近ロケット式の高射砲を盛んに作つてをります。[illegible]もう止まるかと思つて見てをると更にぽつぽつと上の方にあがつて行く。それで絨毯爆撃をやるといふ時には――だいたいが最近の敵飛行士は新米が主で、教育はまづ三ケ月で卒業といふことでありますが、最近の重爆撃機の搭乘人員は九名から十二名平均十名くらゐ、そのうち操縦者が一寸古いくらゐのもので他は殆んど三ケ月の速成飛行士で、だいたい獨り歩きは出來ないのでありますが、それを引張つて來る嚮導機、これには熟練者が集つて來る。その熟練者が先頭に立つて目的地の上空に入つて夜であると照明彈を四隅にゆつくり落す、これをクリスマスツリーといつてをりますが、それによつて目標の幅を決めるのであります、其處へ絨毯爆撃をやるのであります。この絨毯爆撃といふものをよく檢討して見ると、敵の狙つてをるものゝ中には必ず重要な施設が入つてをる、盲滅法に爆撃してをるのではないといふことが判ります。これは集中爆撃で、殆ど手がつけられないのであります。しかしその編隊を崩してしまふと目標を失つて矢鱈に郊外あたりを盲爆して歸つて行くのであります。だいたい最近のヨーロッパの爆撃は千機ぐらゐが纏つて來るのが普通になつたやうであります。一回に落す爆彈も何千トンといふ狀態で、ハンブルグの爆撃の時には一萬二千トンといはれてをります。最近ベルリンの爆撃では一回に八千トン落したといふ例があります。一トン當りの人命の損害といふものがドイツと日本では大分違ひませうから日本あたりではたいへんな損害だらうと思ひます。熟練工保護のための完全な防空室といふものは是非とも必要だと思ひます。また精密機械を地下に移すことも確かに必要だと思ひます。殊に日本のやうにあとの補充がつき難いやうな所ではさういふかけ替へのない機械を地下に移すことは緊急な問題だらうと思ひます。以上雑に組織的でない話になりましたが、一應これで話を終ります（終）